

# ボランティアを通じて持続可能な社会づくりをしよう

道徳科学研究所 主任研究員 冬月 律

人間は一人では  
生きていけない



炊き出しを手伝う筆者

本誌をご覧の皆さんもご存知のように、世界（人類・地球）が抱える諸問題、人権や教育、貧困、健康、環境問題は多様化しています。さらに、そうした問題は、さまざまな

分野の課題が絡み合って複雑化し、社会主体（コミュニティ）はもちろん、個人や家族単位で複数分野の問題を抱えています。改善・解決には複合的な支援を必要とする状況がみられます。

近年問われているSDGsのほかに、社会問題の改善・解決のための国や行政による支援がある一方で、ここでは企業によるCSR（企業の社会的な責任）やNPO・NGOを含む市民団体が取り組んでいるさまざまな社会活動に目を向けてみましょう。

なお「社会活動」とは、「社会のために貢献するもの」で、いわゆる社会貢献活動、ボランティア（人助け、援助行動）のことです。

私は職業柄、宗教や宗教者を扱うことが多いですが、仕事とは関係なく、もともと（個人的に）一般人にも親しまれ、昨年逝去するまでに数々の名言・格言を残した瀬戸内寂聴さんが好きです。時折インター ネットで連載される瀬戸内寂聴さんの「今日を生きるために」の言葉（ニッポン放送コラム）を閲覧しますが、その中に「人間は一人では生きていけません」の言葉があります。子どもから大人まで、そして国を超えてこの言葉を否定する人はおそらくいないでしょう。

私はこれほど人間関係・社会を的確に捉える言葉はほかにないと思います。言い換えれば、人間とは社会性を持ち、さまざまな集団に属しながら

私は職業柄、宗教や宗教者を扱うことが多いですが、仕事とは関係なく、もともと（個人的に）一般人にも親しまれ、昨年逝去するまでに数々の名言・格言を残した瀬戸内寂聴さんが好きです。時折インター ネットで連載される瀬戸内寂聴さんの「今日を生きるために」の言葉（ニッポン放送コラム）を閲覧しますが、その中に「人間は一人では生きていけません」の言葉があります。子どもから大人まで、そして国を超えてこの言葉を否定する人はおそらくいないでしょう。

私はこれほど人間関係・社会を的確に捉える言葉はほかにないと思います。言い換えれば、人間とは社会性を持ち、さまざまな集団に属しながら

「本当のボランティアとは

相互依存・相互扶助の関係に支えられることで、はじめて生きていける存在であること を意味しているのでしょうか。



超える人たちがボランティアに興味があると答える一方で、実際にボランティア活動をしたことがある人は三割強と低く、活動時期を過去数年間に限定すると、その割合は年々減少している結果になっています。ボランティアに関心はあるても実際の活動には結びつかない状態にあるのです。

参加の妨げとなる要因として、時間的制約や経済的な理由が高い割合を占めているのですが、情報不足も挙げられます。また、他の調査では、ボランティア活動に対し、「自発的な意思で参加することが重要」「これから良い社会を創るためにぜひ必要」といったイメージを持つている人が多い一方で、「誰でも気軽に参加できる」と考えている人が少ない結果となりました。

このように参加意欲はあっても、実際の活動に結びつきにくい多くの人にとって、ボランティアという言葉から連想されるイメージには「敷居が高い」「責任が重くて大変そうだ」「政治色が強い」「余裕がある人が行うこと」などがあるようです。

ボランティアとは、日常の暮らしの中で気軽に behaving 行為を通じて、人と人が支え合うことの大切さを互いに共有することに意義があると思い

ます。ボランティアとは、日常の暮らしの中で気軽に behaving 行為を通じて、人と人が支え合うことの大切さを互いに共有することに意義があると思い

### まずは身近な活動から始めてみましょう

最後に、市民活動の観点から、次世代の担い手である大學生とボランティアについて、私の経験を交えながら取り上げてみたいと思います。

現在、麗澤大学には「社会活動演習／サービス・ラーニング演習」科目があり、私が担当教員をつとめています。授業では、先に述べた世界で起きている諸問題について、学生が主体的に学び、考える

私は二〇一五年から本授業を担当していますが、これまでにグローバル化や I T 社会が進んだ今でも、受講生における社会問題への理解や社会活動の経験値にも個人差（温度差）が見られることは、私にとって解決すべき課題でもありました。

そして、学生には少しでも社会問題に対する理解を深めて、他人事ではなく自分事として考えてもらいたいとの想いから、授業では学園の敷地内で開催されるイベントや、



ボランティアのみなさんと